

普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言、提言

1 普及指導活動の体制について

(課内の分担、関係機関との連携、普及指導員の資質向上の取組等を含む)

農協、市町村等自治体の連携が図られており、担い手問題を中心に地域農業の課題に取り組んでいると評価できる。逆に、他機関と緊密に一体的に取り組まれている場合は、普及事業だけを切り出して評価することは難しいと思われる。

こうした連携を構築する能力が普及員により強く求められてきていることから、経験を次に活かすことができる、また他地域で活かすことができるようなノウハウの蓄積をすることが求められる。

普及指導活動は、本県の生産振興、農業者支援において、非常に重要な位置づけであり、職員の方が日々精力的に活動いただいていることに感謝しています。

今年の発表にありました新規就農者への支援などを行う上で、職員数の確保は必須と考えます。本年度より定年延長など仕組みの変更によりスキルを持った人材が確保できる一方で、10年後、若手の職員不足とならないよう年齢構成バランスを考慮のうえ、地域ごとに最適配置をお願いします。

職員育成研修において、多くの専門知識を習得されています。職員と農業者の相互に世代間ギャップが生じ考え方も異なってきていることから、コミュニケーションスキルの習得を研修科目として加えてはどうかと思いました。よりよい関係が築くことができれば、更により普及活動へつながるのではないかと思います。

普及指導活動の体制については、徐々に検討がなされ、またそれに応じて組織の再編成などが着実に行われていると思う。こうしたことには明確なゴールがあるわけではないので、常に環境の変化や時代の流れをキャッチしながらタイムリーに対応していくことが必要。(すでにやられているかもしれませんが) 予め、見直しのタイミング(毎年1月に検討、4月の組織改編に反映、など)を決めて、定期的に行っていくことが重要だと思う。

評価会議の席上で「5年後10年後には担い手が確実に減る」という説明があったが、一部の農業経済学者の試算によると「20年後に農業従事者は現在の4分の1に激減する」という見方もある中で、近い将来の愛知県農業をどう継続させていくのかが問われている。

新規就農者数の目標を5年で1000人と示しているが、残念ながら抜本的な対策には見えない。

農業の危機に対する県としての大きな方向性を示した上で、それを実行に移すための普及指導体制の強化を図るべき時ではないか、農業は経済行為であり、農地の仲介・斡旋、農業技術の指導、日の浅い就農者同士の横のつながり強化など、これまでの行政の枠を越えた役割が求められているように思う。

普及指導員が、農家の現場にどんどん行って、末端の農家の悩み、意見などをしっかり把握していれば、自然と指導方針が見えてくると思う。農家や部会など、半日でも話をする場があれば、これからの農家がどんな体制が適切なのか、農家、部会も方向性が見えてくると思う。大事なたくさんのお知らせください。

概ね上手にまわしていると思うが若い普及員には地域の気質等わからず苦勞があると思うが、地域経験の長い普及員の担当を超えた時折々のサポートも必要。

基本的な体制は、整っているように思いますが、関係機関と連携しても、目指しているところが現状とマッチしているか、農業者を経営者に出来るかという点で指導員の今後の手腕が問われると思います。

ある意味指導員は、今後コンサルタントとならなければならないと考えます。

2 普及指導活動の計画について（普及課題・対象の選定、目標設定等を含む）

無理のない範囲で適切に普及計画が立てられているとみられる。

・より根本的には、部門あるいは作目ごとに全国的な産地動向をリサーチして見定めたいうえて、県内産地の将来ビジョンを策定し、それに沿った行動計画が必要になると思われる。

・担い手の裾野を広げるという点では、非農業者を様々な形で取り込むことが必要となっており、それに対応した普及計画が立てられ、実行されている。とくに、非農業者を取り込んで複数の農場で生産に従事する場合は、作業の標準化やマニュアル化が求められる。個別性が強い農作業の方法等を集約してある程度スタンダードなものを作成することがでてくる。そこで技術の点検や見直しが必要になると思われる。

限られた職員数のなか、非常に多くの課題に取り組み、着実に進めてみえると思います。

愛知県の農業振興に基づく普及戦略として、将来を見越した県域単位で取り組むべき方向・課題（例：一体的支援プログラム、みどりの食料システム戦略、あいち農業イノベーションプロジェクト）を取組事項へ落とし込み、計画および目標策定をお願いします。

他の評価委員からの質問に対して、愛知県としての重点作物などを決めるというようなことはしていないとのこと。つまりそれぞれの地区などの事情に応じて、課題や対象を選択していくという方針だということだった。これはこれでいいと思うが、それとは別に、時代の要請に沿ったテーマ（例えば、ドローンの活用、省エネ対策、など）を決めて、それについて各地区の取組などを報告してもらい集約するなどの「テーマ別研究」も同時に行ってはどうかと思う。

猛暑だった今夏、今秋の野菜の価格高騰は社会のさまざまな面に影響を与えた。現状で農業の猛暑対策は十分とはいえない。高齢の農家が猛暑で作物がだめになってしまうと、そのまま廃業してしまう恐れもある。2023年度の普及指導活動の中で、猛暑対策が検討されているのは、実用化技術研究会の野菜（トマト）でわずかにみられるだけ。暑さは今後さらに顕著に、期間も長くなるほか、病害虫も増えると予想されている。農業が生き残るための暑さ戦略を立てられるのは県（市町村には難しい）だけである。

65歳前後が半数を占める部会では、10年後はまだしも、15年後にはなくなってしまう可能性がある。今のうちに、新たに農家をやりたい若者の指導者としてこの年代の人を使ってほしい。

国・県にはレンタル・リースでもいいので、スマート農業ができる施設ハウスを建てていただきたい。これからは個人ではなく、農業法人、農業企業にしていくのがよいのだろうか。そのような指導もよいかもしれない。

技術指導に対して地域に応じた計画だと思う。

現在農業の問題として外的要因による経費の増大、それに伴う経営の圧迫、後継者不足を含めた農家の減少が大きな問題だと感じる。その点を踏まえ、農業経営の安定化、地域農業の活性化、後継者、新規就農者拡大を含めた計画も必要。

人の善意だけに頼り行えるのは、始めて1～3年です。その後は、人が増えるにつれ有償を望む声が出て、有償ならと技術が問われるようになります。また、組織として運営するとリーダーが必要になってきますが、高齢者では一年一年能力の減退が否めません。つまりは、ボランティアが仕事に移行していくわけですので、はじめからやりがいと収入をバランスよく理解してもらい、一定のスキルをもって活動できる人を育てることが必要であると考えます。

3 普及指導活動の経過、実績及び成果について

<p>普及指導活動は、有効に行われているとみられた。</p>
<p>目に見えない成果や数値にできない成果もあるので、一元的な評価は避けるべき。多様な評価軸が必要となるであろう。</p>
<p>個々の活動の成果を蓄積して（地域を越えて）県全体でその経験を共有できるようにしてほしい。</p>
<p>優良成果発表を伺い、普及指導活動が着実に進み成果が出ていることが確認できました。生産者・JAからの評価も高く、担当職員の熱意と「考動力（自ら考え動く）」の賜物だと思った。</p> <p>発表事例を成功モデルとして他地域へも水平展開して、地元JAとも協議のうえ、実践してもらおうようお願いします。</p>
<p>課題の発表を受け、農業者とのコミュニケーションを意識した普及・支援活動を実践いただいていることがよくわかった。</p>
<p>添付資料に多くの取組課題・内容が掲載されています。説明の必要はないのですが、何がどこまで進んでいるのか進捗を提示いただくと、より普及活動の実績・成果が分かりよいのではないかと思います。</p>
<p>報告事例については、以前は「作物の育成方法」が主体だったが、近年は「集団での取組」の事例が報告されるようになった。そして今回は、「人材確保」「人材育成」という人に関するテーマが登場した。報告された事例については、それぞれ工夫がなされて、他の地域への波及も期待されるものだった。逆に言えば、こうしたものをさらにわかりやすく標準モデルを作成して、各普及課に提供していけばいいと思う。最終的には、そうしたものを「データベース」にできる仕組みを構築し、活用できる体制を作ることを提案する。そのためには、様々な情報の「検索の仕組み」が重要。</p>
<p>現地調査した春日井市・小牧市のモモ栽培サポーター制度に関しては、農家の人手不足をボランティアで賄おうとするやり方が一定の効果を上げていることが分かった。ボランティアのモチベーション、技能にばらつきがあり、多人数の管理・意向の集約等の事務作業に多大な労力が掛けられていて、事業全体の費用対効果はどの程度プラスになっているのかという疑問も持った。人と人を結びつけ新たな協同農業の事業を始めるのは困難だが、評価会議で報告のあった事例はともかくとして、普及所の全職員がその成果を実際に手にし、仕事への喜びを感じられているのか。職員アンケートや上司による評価などで個々の事業の問題点を把握し、評価会議で説明があると良いと思う。</p>
<p>小牧の事例について都市近郊の立地をいかし農家の高齢化対策とともに地域の農業への理解にも対応した良い事例だと思う。農家、JA、普及がうまく協力、対応していて他地域への拡大を望む。</p> <p>豊川の事例については新規就農者の拡大に成果をあげているが旧JA間の難しさを解決していくには担当だけでなく課内、JA担当を含めた更なる対応を望む。</p>
<p>普及員の皆さんが目指すものは明確になってきて、ご努力も伝わってきますが、農業従事者ご自身たちの危機感はどのくらいでしょうか。生産者ではありますが、農業「経営者」としてのスキルを研修していただく必要があるのではないかと感じました。良い事例をより多</p>

く学習していただき、生産者の態勢強化につなげていただきたいと思います。また今後は、新規就労者の受け入れ・指導体制など地域の農家皆で支える仕組みが必要だと感じていただきたいと思います。

4 その他

愛知県の普及の歴史を学ぶ機会が求められる。普及指導自体と、普及指導の場としての愛知県農業の強みを知り、誇りを持てるようにすることが重要となる。

今回の報告テーマであった「人材確保」「人材育成」は、まさに今という時代を象徴するものだと思います。人口減少に加えて少子高齢化が進行する今、人の確保がますます困難になるため、育成を強化し能力を高め発揮できるための取組が必要。同時に、人が増えなくても生産が保持できるあるいは増加できるためには「生産性の向上」以外にはない。

将来に向けて安定した経営を行っていくためには「事業計画」を作成することが必須。「人材確保・育成」「生産性向上」「事業計画」が3大テーマです。これらについて普及指導員にはしっかりと知識やスキルを学ぶ機会を提供しなければなりません。現在、愛知県では「農業経営塾」「女性リーダー育成研修」などの教育事業が行われていますが、その中で上記3テーマの講義も行っています。

これらは、ビデオ収録も行われていますので、普及指導員には期限を決めて視聴させて、一気に基本知識とスキルを学ばせる方法を提案します。

これなら、コストを掛けずに実施可能です。すでにある財産を有効活用してください。

評価会議自体は、昨年も思いましたが、大変すばらしい発表だと思いました。この発表は大変いいのですが、愛知県全体から見るとあまりにも発表の数が少ない。

活動内容についてよく理解できた。また意欲も十分伝わってきて良かった。

5 地域農業の振興に向けて普及事業が取り組むべき活動内容等の提案

都市住民など非農家からのサポーターの発掘と活用については、ますます重要度が増す。そのなかで非農業者を対象とした普及活動をどのように行っていくのかを検討していただきたい。

海外品に頼らず、国産品で継続して農業が可能になるための仕組みを作り、日本の食料自給率を大きく向上させること、これに尽きます。

普及指導員は人を集めるのが上手。農家はこれが苦手です。給与計算・パートシフト作り、こんなこと頭の片隅にも無いでしょう。ただ黙々と、作物を作るのは得意なので、農家には皆、事務局が必要。

普及課と市と農家・部会と意見交換する場は今もあるのでしょうか。

生産振興において新規就農者、労働力支援の取り組みが重要と考えます。広い門戸で募集する農業大学の農起業支援ステーションの体制が確保できていますが、重点品目ごとの体制の構築（技術相談、補助など）が必要と考える。

地域・品目で産地をけん引するリーダー農家の育成を合わせて検討することが重要と考える。

高齢化に伴う農業経営モデルの提案

後継者を含め、新規就農者の確保

新規就農者を発掘、育成することと並行して、現在の農業経営者の家族が、後継者にならない理由や原因をしっかりと把握することが必要だと思う。農業離れがなぜ進むのか、根本的な問題を解決することも今後は必要ではないかと強く思う。

6 評価会議について意見（普及事業全般含む）

午前に現地、午後から評価会議というパターンは、訪問地が遠隔地の場合は無理があるのではないか。

今回は、視察と会議を同日で行いました。評価員にとってはやや負荷のかかる日程でしたが、コンパクトで合理的な方法だと思いました。また、ライブとリモートのハイブリッド開催は、移動時間の短縮などメリットが大きいと思います。そういう意味で、今回の開催方法は「よかった」と思います。

評価会議において普及事業全般（その年度の新事業等）について詳しい説明が評価員にあると、全体を把握しやすくなると思われる。

アドバイザー以外では普及課の存在を感じたことが無かったので、大変もったいないと思っています。情報・指導力、もっと末端に感じさせてほしいです。

今年度の会議の開催回数の見直しについては、効率的でよいと思います。

限られた職員で業務を担われているので、どのように業務効率化の取り組みを実践されているのか教えていただきたいです。

現在実際に担っている方の年齢は、どんどん高齢化していくと思うので、高齢者への話しかけ方、説明の仕方、家族を含めた同意の得方など、今まで以上にコミュニケーション力が普及員への必要なスキルとなっていくと思います。ご専門の他に身につけていただきたいですし、新しく普及員となられる皆様への研修項目として重要な位置づけを望みます。